

第1回 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会 議事録

日 時：平成26年8月20日（水） 13時30分～14時45分
場 所：秋田市役所議場棟1階 第二委員会室
委員の定数：13人
出席委員：10人

1 開会

2 秋田市副市長あいさつ

3 委員紹介

4 委員長、副委員長選任

委員長に大塚 妙子委員、副委員長に石沢 真貴委員を選出した。

5 議事

(1) 「本市エイジフレンドリーシティの取組および秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画について」

資料1をもとに、事務局から説明を行った。

委員長	行動計画について事務局から説明をいただいたが、ご質問やご意見はないか。
委員	特になし。

(2) エイジフレンドリー指標の開発について

資料2をもとに、事務局から説明を行った。

委員長	指標の開発も秋田市がはじめて取り組むことになるが、市民にわかりやすい形で、既存の概念にとらわれず、地域性を盛り込んだ指標の設定に主眼を置いていることは、市民にとってはありがたい。皆さんのご意見はどうか。
委員	施策の評価について、個人個人の主観的な部分を計量化して客観的に評価することは難しい。施策を行う側の自己満足で終わらせるのではなく、あくまでも市民が秋田市に住んでいいなと思えるものはどういうものなのかを考えていかなければならない。

委 員	建築業界としても指標の検討をしているがなかなか難しい。何を もって秋田の地域性として捉えるのが重要。秋田市独自のもの があるとすれば全国から賛同を得られるだろう。
委 員	指標の事例調査について、予定・内容等を説明してほしい。
事 務 局	自治体で取り組んでいるユニークな事例もいくつかあった。一方 で、WHOからの情報では、指標の設定で客観的主義、主観的主 義の折り合いが難しいという話もいただいた。指標設定には最低 限何が必要なのか、基本を専門家からお聞きしながら進めたい。 まずは、全国各地の指標の情報を得てグループ化したい。
委 員	指標づくりは多岐にわたるという課題があるので、お互いに情報 を共有しながら進めていくとよいのではないかな。
委 員	まずはWHOが出したチェックリストについて、担当部署に検討 してもらい、秋田市の評価の仕方について意見、提案を出しても らえばよいのではないかな。いまずぐに独自のものを出すのは難し いので、まずはやってみてはどうか。
事 務 局	平成21年度の勉強会の中で、84のチェックリストの検証をし た。その結果を平成23年度にまとめられた秋田市エイジフレ ンドリーシティ推進協議会の提言書に反映させているのだが、当時 の検証でハード面についてはかなり明確化された一方、ソフト面 はデータが少ないことがわかった。それを踏まえて高齢者へのア ンケート調査も行った経緯がある。その結果について次回の委員 会までに資料を郵送するので、今後の参考にしてほしい。
委 員	指標に関しては地域性を入れなくてもよいと思う。高い評価を取 ることが目的ではないので、市の状況や市の目指す方向を市民に 対してわかりやすく説明できるものの方がよいだろう。アンケー トを指標化する際も注意が必要で、場合によってはプレ調査など 何回か調査して確認することが必要である。そういった意味では、 指標はすぐにはできないかもしれないが、長く使うことを考えれ ば何回か試していく必要があるのではないかな。 事務局へ質問だが、WHOが作成しているものに関して、途中経 過の情報はあるのか。
事 務 局	現段階で公表されていないが、最終版の情報は得ているので、資 料として提供することは可能と思われる。

- 委員 それと全く同じにする必要はないが、情報が入手できるのであれば参考になると思う。
- 委員 商店街として高齢者コインバス事業は評価したい。私の地域での取り組みだが、元気な高齢者を動かして、町内で花壇やシルバー川柳をながめてもらうことを実践している。高齢者にやさしい町づくりを行政でなく、私たち市民が、町内の老人クラブが取り組んでいることを紹介させていただく。
- 委員長 こういった活動が全市に広がればよい。
- 委員 エイジフレンドリーという言葉の理解がなかなか進まない。指標を定めることによって、エイジフレンドリーシティの意味が市民に浸透する面白い仕掛けになるのかなと思う。秋田市の現状を正直に伝えること、これが指標として大切であり、その理由を検証することでエイジフレンドリーの必要性を訴えていけばよいのではないか。
自分たちの団体では、隠れた秋田の良さを私たち市民自身が探し出す街歩きを行っている。このような活動を全市で取り組めばエイジフレンドリーが定着するだろう。
- 委員 NPOなどで買い物支援を試みた事例があるが、なかなか成功しないし、それほど要望が多くなかった。
指標に関しては、個人が何を幸福と感じるかを丁寧に見ていかないといけない。全体的にハードやソフトが満たされることよりも、個人にとって満足かどうかが重要になる。個人が重要と考えるものが満たされる人が多ければ、秋田市は暮らしやすいということになる。そのような視点で指標の案をいくつか作って選んでいけばよいのではないか。
- 委員長 様々な意見が出たので、事務局で参考にしていただきたい。指標づくりに関しては、市の総合計画でエイジフレンドリーシティの4つの重点項目が設定されているので、それらに絞って指標を作るというやり方もある。

(3) 平成26年度行動計画推進委員会スケジュールについて

資料4をもとに、事務局から説明を行った。

委 員 長	スケジュールについて、ご質問等はないか。
委 員	特になし。

(4) その他について

委 員 長	議事の他に、委員のみなさんからご意見はあるか。
委 員	市民の立場から申し上げますと、エイジフレンドリーシティ構想が必ずしも浸透しているとは言えない。取り組みの方向性、施策の内容、効果などの情報を、様々な手段によって一般市民に広く知ってもらうことが重要だと考える。
委 員	エイジフレンドリーあきた市民の会で行う9月20日のイベントのご案内をさせていただきたい。
委 員 長	その他意見がなければ、これで議事を終了する。

事務連絡

- ・第2回推進委員会の開催について、11月を予定。

6 閉会